

診断報告書等に関する質問及び回答(第1回)

京都市立学校耐震化PFI事業

NO.	資料名	頁	章	節	細節	項	目	項目名	質問	回答
1	京都市立烏丸中学校 校舎耐震診断 - 1棟 耐震診断報告書	5-37	§ 5	5-3	-			あと施工アンカー	あと施工アンカーが、D22とD19両方記載されていますが、D22を正としてよろしいですか。	D22を正とします。
2	銅駝美術工 耐震第二次診断 報告書 -1,2	1-20 4-85 4-87 4-89						1階伏図 破壊モード図	補強対象棟のうち、すでに第三者機関の判定取得を完了している棟がありますが、その第三者機関の判定委員会はどこでしょうか。(低強度コンクリートとなる建物の評価について、各判定委員会での取扱いが異なり強度等に影響が生じるため)	判定を取得した判定委員会の名称については、必要に応じて、落札決定後に選定事業者に開示します。
3	京都市立銅駝美術工芸高校校舎 耐震診断 - 1.2棟 耐震診断 結果報告書	1-29	§ 1					軸組図	X1通軸組図 2階Y12-Y13間WG2(200x1750)ウォールガータ梁が、改修により一部撤去されています。本診断報告書では、WG2で入力されていると思いますが、どのように理解すればよろしいですか。	ご指摘のとおり、WG2は一部が撤去されています。ただし、両端の柱の耐力は一部撤去前の状況と同様に期待できるため、今回の耐震診断では、簡易的にWG2としてモデル化を行っています。なお、耐震補強計画を作成する際のモデル化については、事業者の判断に委ねます。
4	京都市立銅駝美術工芸高校校舎 耐震診断 - 1.2棟 耐震診断 結果報告書	1-32	§ 1					軸組図	X12通軸組図 1階Y3-Y6間の開口について、X13通側に宿直室が増築されており、現地調査の際、職員室と通り抜けできるようになっておりました。軸組図は、WG1'梁があり通り抜けができない開口となっておりますが、一部撤去されていると理解してよろしいですか。	ご指摘のとおり、WG1'梁は一部が撤去されています。ただし、両端の柱の耐力は一部撤去前の状況と同様に期待できるため、今回の耐震診断では、簡易的にWG1'梁が残っているものとしてモデル化を行っています。なお、耐震補強計画を作成する際のモデル化については、事業者の判断に委ねます。
5	京都市立銅駝美術工芸高校校舎 耐震診断 - 1.2棟 耐震診断 結果報告書	4-26	§ 4	4-2	(4)			下階壁抜け柱の検討	診断時の検討において、Y1通り X1-X2間の下階壁抜け部分における上階耐震壁曲げ破壊時の柱鉄筋本数が5本となっています。「既存鉄筋コンクリート造建物の耐震診断基準同解説」のP221において、両側柱付壁の曲げ終局強度算出の数式では、側柱主筋の全断面積になっています。その本数を採用しますと下階柱に補強を必要とするところがあります。その様なところは補強を必要として、提案してよろしいでしょうか。	下階壁抜け柱に補強が必要な場合は、補強の提案は可能です。
6	耐震第二次診断 報告書							判定取得済の第三者判定機関	銅駝美術工芸高等学校 -1~4棟の一部に、基礎梁が配置されていません。(X7,X9,X11通りY1-Y2軸間の3ヵ所)耐震診断結果では柱脚剛として計算しているようですが、基礎梁を増設することは可能でしょうか。	当該部分の基礎梁がなくとも建物の耐震性能が満足されていれば問題ないと考えますが、基礎梁の増設が必要な場合は要求水準の範囲内での施工であれば可能です。